



学生数/約9700人
 学部/文、教育、健康・スポーツ科学、生活環境、食物栄養科学、建築、音楽、薬、看護、経営/短期大学部
 大学院/文学、臨床教育学、健康・スポーツ科学、生活環境学、食物栄養科学、建築学、薬学、看護学
 THE世界大学ランキング日本版2021/151-200位、同インバウトランキング/1001+位

「データリテラシー・AIの基礎」

育成人材像 社会の変化に対応するために学び続ける力、今起きていることを知らないままで済ませずに自分の中に取り込み自分自身を変えていこうとする意欲を持つ人

▶ 学修内容 (全てオンデマンド方式で実施)

テーマ	回	内容
社会におけるデータ・AI利活用	1	データサイエンスとは
	2	社会で起きている変化
	3	社会で活用されているデータ
	4	AIとは
	5	AIの利活用
	6	データ活用とは
	7	データ・AI利活用の現場
データリテラシー	8	データを読む・データを説明する(1)
	9	データを読む・データを説明する(2)
	10	データを読む・データを説明する(3)
	11	データを読む・データを説明する(4)
	12	データを読む・データを説明する(5)
	13	データを扱う
データ・AI利活用における留意事項	14	データ・AIを扱う上での留意事項(1)
	15	データ・AIを扱う上での留意事項(2)

▶ 指導上の工夫点

授業構成や教材の工夫

大多数の学生には、なじみのない話題が多いため、段階的に理解が進むように構成を工夫。その上で、教材では丁寧な説明を行い、わかりやすい事例を多数紹介している。

【学生の声】最初はとても難しく感じていたが、授業をしっかりと聞いていると理解することができた。データの扱い方やデジタル化が与える社会の変化など、これから社会に出たときに必要となる知識を得られたと感じた。

学びの定着の工夫

毎回の確認テストに加え、データリテラシーの回では、パソコンを使う演習課題を課している。さらに復習コースも用意し、必要とする学生に提供している。

【学生の声】Excelなどを使う機会が今まであまりなかったため、不安もあったが、授業動画が丁寧で一つ一つわかりやすく説明されていたため、自分のペースで課題に取り組むことができた。受講前に比べ、自分の力でできることが増えたと感じた。

注目!

全学科で定期的に情報を共有し 2300人の履修をサポート

「データリテラシー・AIの基礎」は全学必修であるため、単位の修得が卒業の必須要件。同大学は手厚いサポート体制を整え、学生を支援している。

まず、受講のしかたで学生がつまづかないように、学修教材へのアクセスや質問の方法、学修の進め方などを説明した専用ページ*を共通教育サイト内に開設。受講前に対面での質問会も実施したことで、混乱なく受講を開始できた。また、パソコンの操作や数値の計算などを苦手とする学生もいるため、「データサイエンス学習支援ルーム」を新設。月2回の共通教育委員会にて修学状況の報告を行い、報告を受けた各学科から、課題提出が遅れている学生への声掛けなどを行っている。

学生からは、「動画の配信サービスで表示される『おすすめ』にはビッグデータが活用されているなど、データサイエンスと縁の深い生活を送っていることがわかった」「伝えたい内容によってグラフを使い分けることの重要性を学んだ」などの声があがり、この科目の狙いが伝わっている様子がうかがえる。

データサイエンス学習支援ルーム



「データサイエンス学習支援ルーム」では専門スタッフ2人が、学生からの質問や相談に対応。モニター学生の協力を得て、各学科の特性に配慮した副教材を準備するなど、学生の理解度を高めるフォローも行っている。

社会変化に向き合う女子大教育 →全学必修のデータサイエンス教育の導入

武庫川女子大学

CASE STUDY

数理・データサイエンス・AI教育のリテラシー科目を2300人規模で必修化。実現を可能にしたしくみと、女子大でデータサイエンスを学ぶべき理由を聞く。



教務部部長・情報教育研究センター次長

蓬田 健太郎

よもぎだけんたろう ●1987年東北大学医学部医学専攻卒業。国立水戸病院勤務後、1995年東北大学大学院医学研究科にて博士号取得。大阪大学微生物病研究所助手、助教授を経て、2004年より武庫川女子大学食物栄養科学部教授。2022年より現職。

女性ならではの視点で 新たな価値を提案

本学では数理・データサイエンス・AIを女性の活躍に欠かせない素養と位置付け、2021年度入学者から、それらのリテラシー科目を必修化しました。

背景には、女子大の役割の変化があります。かつての女子大の使命は良妻賢母の育成でした。その後、子育て後の社会復帰を見据えたキャリア形成への期待が高まるなど、資格系の学部が設置されるようになりました。そして今、男女共同参画社会の中で、女子大には新たな役割が求められています。

男女共同参画とは、男女が同じ役割を担うことではありません。互いのよさを生かし、共に社会を支えることを意味します。男性中心の社会では出にくかった、女性ならではの視点や、自身の個性

スピードを重視し アジャイル型で開発

こうした背景の下に開講した「データリテラシー・AIの基礎」を、全1年生約2300人が68クラスに分かれて学んでいます。

教材を一から自作すると時間がかかり、今いる学生の学修機会を奪うことになりかねません。そこで自前主義にこだわらず、外部のオンライン動画教材を導入。それ

の發揮は新たな価値の提案につながるものです。今日の女子大には、同性のみの環境で学ぶことにより、男性と比較した女性としての自己だけでなく、性別にとらわれず自由な視点で個を確立し磨く役割が期待されていると考えます。

今や、デジタル技術は社会のインフラ。そのしくみを知らずして新たな価値提案は困難でしょう。また、データやコンピュータが苦手だからといって、それらを避けていては社会変化に取り残されま

す。本学のビジョンは、「一生を描ききる女性力。」です。全ての学生に、「データサイエンス教育を通して社会変化と向き合い、変化を取り込むことで自らを成長させる一生ものの力を身に付けてもらいたい」と思っています。

一方で学生調査からは、遠隔授業は学生の理解度を高める反面、目的意識を低下させる傾向も見えてきました。キャリアセンターと連携し、学生が学んだことを振り返って、自分のキャリアを見つめ直す機会を、今以上に多く設けることも検討しています。

今後も、アジャイル型の手法を用いて、スピード感を持って改革に取り組んでいきます。

学生の履修状況や授業への反応は良好で、1年目は順調なスタートが切れました。今後は、授業内容のさらなる改善を図るとともに、学んだ内容を自分のキャリアに生かすしくみも整えていきます。また今は、データサイエンスやAIの応用力を養う専門科目が、全ての学部・学科で開設されているわけはありません。充実に図るには、その土壌として、教員がAI等を身近なものに感じ、教育に取り入れる意識を持つことが重要です。そのため、FDの実施などを考えています。

*<https://kyotsu.mukogawa-u.ac.jp/ai-guide/index.html>

取材・文/ 見山雄介